

大学等名	新潟大学
プログラム名	データサイエンス・ベーシックプログラム
プログラム掲載URL	https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~bda/development/program/ds_basic.php
現在(直近)の認定期間	R3.4.1～R8.3.31

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	全学部
③ プログラム履修必須の有無	時期未定
④ 修了要件	選択必須科目から2単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	1 科目
	2 単位

授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	
(1) 必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																							
(2) 選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																							
データサイエンス総論Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
データサイエンス総論Ⅱ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
データサイエンス概説	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○
(3) 選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																							

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自ら生活と密接に結びついている	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット 「データサイエンス総論Ⅰ」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 「データサイエンス総論Ⅰ」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 「データサイエンス総論Ⅰ」(1回目)、「データサイエンス概説」(1回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど) 「データサイエンス総論Ⅰ」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(1、13回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(1、13回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(1、13回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(1、13回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(1、13回目)、「データサイエンス概説」(1、11回目)
	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(3回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(4回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(4回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(4回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など) 「データサイエンス総論Ⅰ」(2回目)、「データサイエンス総論Ⅱ」(2回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(2回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(3回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(3回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(3回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(3回目)、「データサイエンス概説」(2、15回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど 「データサイエンス総論Ⅰ」(8回目)
	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 「データサイエンス総論Ⅰ」(3回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(1、8回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(1回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(1回目)、「データサイエンス概説」(1、14、15回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション 「データサイエンス総論Ⅰ」(6、8回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(11回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(12回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(12回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(12回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(12回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など 「データサイエンス総論Ⅰ」(3回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ 「データサイエンス概説」(10回目)
	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案) 「データサイエンス総論Ⅰ」(1、7回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(工学分野)」(9回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(9回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(9回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(9回目)、「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(9回目)、「データサイエンス概説」(11、15回目)

(4) 活用に応じた様々な留意事項(ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し, 情報セキュリティや情報漏洩, データを守る上での留意事項への理解を促す	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) 「データサイエンス総論Ⅰ」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(15回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(14回目), 「データサイエンス概説」(11回目) ・個人情報保護, EU一般データ保護規則(GDPR), 忘れられる権利, オプトアウト 「データサイエンス総論Ⅰ」(7回目), 「データサイエンス概説」(11, 14回目) ・データ倫理: データのねつ造, 改ざん, 盗用, プライバシー保護 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(8回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性, 完全性, 可用性) 「データサイエンス概説」(14回目) ・匿名加工情報, 暗号化と復号, ユーザ認証と, パスワード, アクセス制御, 悪意ある情報搾取 「データサイエンス総論Ⅰ」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(15回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(14回目), 「データサイエンス概説」(14回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など, 社会での実例を題材として, 「データを読む, 説明する, 扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類の(量的変数, 質的変数) 「データサイエンス総論Ⅰ」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(2回目), 「データサイエンス概説」(2回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値, 中央値, 最頻値) 「データサイエンス総論Ⅰ」(3回目), 「データサイエンス総論Ⅱ」(3回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(5回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(6回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(6回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(6回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(6回目), 「データサイエンス概説」(2回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い) 「データサイエンス概説」(2回目) ・データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値), 外れ値 「データサイエンス概説」(2回目) ・相関と因果(相関係数, 擬似相関, 交絡) 「データサイエンス総論Ⅰ」(6回目), 「データサイエンス概説」(4回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ, 折線グラフ, 散布図, ヒートマップ, 箱ひげ図) 「データサイエンス総論Ⅰ」(3回目), 「データサイエンス総論Ⅱ」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(5, 7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(5, 7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(5, 7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(5, 7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(5, 7回目), 「データサイエンス概説」(2, 3回目) ・データの比較(条件をそろえた比較, 処理の前後での比較, A/Bテスト) 「データサイエンス総論Ⅱ」(2, 3回目), 「データサイエンス概説」(4回目)
	2-3	・データの取得(機械学習可能なデータの作成・表記方法) 「データサイエンス総論Ⅱ」(2回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(8回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(8回目) ・データの集計(和, 平均) 「データサイエンス総論Ⅱ」(3回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(6回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(7回目) ・データの並び替え, ランキング 「データサイエンス概説」(3回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート, BIツール) 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(6, 12回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(7, 11回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(7, 11回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(7, 11回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(7, 11回目)
以下のオプションを含むもの 4-1 統計および数理基礎 4-2 アルゴリズム基礎 4-3 データ構造とプログラミング基礎 4-4 時系列データ解析 4-5 自然言語処理 4-6 画像認識 4-7 データハンドリング 4-8 データ活用実践(教師あり学習) 4-9 データ活用実践(教師なし学習)	4-1	
	4-2	
	4-3	
	4-4	
	4-5	
	4-6	
	4-7	
	4-8	・教師あり学習による予測 「データサイエンス総論Ⅰ」(6回目), 「データサイエンス総論Ⅱ」(5, 6, 7回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学分野)」(14回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)」(12回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)」(12回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)」(12回目), 「エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)」(12回目), 「データサイエンス概説」(10回目)
4-9		
その他		

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和2 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数 合計	修了者数 合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
人文学部	917	555	210	852	6	6	172	172	148	148	33	33	59	59	39	23	457	441
教育学部	772	412	180	720	176	176	202	202	183	183	172	172	18	18	15	10	766	761
法学部	745	392	170	690	6	6	138	138	124	124	45	45	61	61	62	26	436	400
経済科学部	1,469	502	350	1,420	8	8	200	200	285	285	171	171	227	227	344	85	1,235	976
経済学部	8	1	-	-	0	0	1	1	0	0	1	1	27	27	51	22	80	51
理学部	894	214	200	820	145	145	182	182	211	211	162	162	214	214	74	49	988	963
医学部	1,484	753	300	1,487	197	197	221	221	218	218	216	216	124	124	55	16	1,031	992
歯学部	352	226	60	357	13	13	24	24	26	26	29	29	31	31	3	1	126	124
工学部	2,299	362	535	2,165	567	567	589	589	647	647	327	327	425	425	252	86	2,807	2,641
農学部	756	386	175	720	97	97	125	125	123	123	138	138	161	161	23	17	667	661
創生学部	284	146	70	265	69	69	76	76	68	68	2	2	10	10	10	6	235	231
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合計	9,980	3,949	2,250	9,496	1,284	1,284	1,930	1,930	2,033	2,033	1,296	1,296	1,357	1,357	928	341	8,828	8,241

認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	<p>【①授業内容の評価】学内教員による内部評価委員会及び学外会社員等による外部評価委員会において、当該科目はMDASHリテラシーレベルの学習内容を含んでいることが確認されている。【②学習者の意識向上】本学が実施する授業評価アンケートによると、理解度と満足度(項目10,11)は4件法のポジティブ側がいずれも90%超を維持しており、データサイエンス領域の導入・学習動機付けとして効果的に実施できている。【③学習者の成績向上と二極化】年度ごとの成績の平均値は令和4年度～令和7年度で向上が見られる。一方で、特に全学向け「データサイエンス総論Ⅱ」において成績の上位と下位が二極化している傾向がみられる。</p>
②履修者数向上に向けた取組	<p>【①履修者数実績】令和4年度以降の入学初年度履修率75%超を維持しており、令和3年度申請時に設定した55%を超えている。【②履修者数向上のための取組】本学では令和4年度から全学部でデータサイエンス入門科目を必修/選択必修としており、文理問わず全ての学生がデータサイエンス領域を学ぶようにしている。また、教育学部、医学部医学科、工学部、創生学部(、令和8年度から理学部)は本プログラム2単位の修了を卒業要件としている。【③周知・広報】各学部と情報共有を行い、他の必修科目と重ならないように開講している。また、新入生がスムーズに履修できるよう、プログラムの対象科目を一覧表にして新入生ガイダンス資料として配布している。</p>
③修了者数向上に向けた取組	<p>【①プログラムの修了認定制度】本プログラムでは学生からの履修や修了の手続きが不要であり、毎年度の9月と3月に担当事務側で科目修了状況の集計～オープンバッジの発行通知を行っている。これにより、修了認定の事務手続きが簡略化され、申請漏れによる修了者の見逃しを無くしている。【②リメディアル数学の実施】主に人文社会科学系の学生向けに、前期に「リメディアル数学Ⅰ・Ⅱ」を開講している。科目内容は、高等学校数学科の解析学領域を中心として、データサイエンスやプログラミングで必要となる配列、数値モデルを高大接続水準で扱う。人文社会科学系学生は前期に任意選択科目としてリメディアル数学等の理数科目を受講してから、後期必修で当該プログラム科目を履修することが想定されており、令和7年度「リメディアル数学Ⅰ」は4科目計225名が聴講した。</p>
④関連する資格の取得推進に向けた取組	<p>【①学内の制度連携】本学では、MDASHリテラシーレベルの「データサイエンス・ベーシック」、MDASH応用基礎レベルの「データサイエンスリテラシー」、独自の実務エキスパートレベルの「実践データサイエンス」の3つを一連のプログラムとして整備している。後者2つは新潟大学・全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)の“パッケージ型マイナー”に登録し、学内一元的な手続きとして履修者の事務負担軽減と履修状況の管理負担軽減を実現している。【②オープンバッジの発行】申請プログラムを含む前述の3つのプログラムの修了者にオープンバッジを発行することで、外部向けにも資格としての効力を持つようにしている。【③課外活動への協力】本学ビッグデータアクティベーション研究センター内学生チャレンジラボを設置し、学生主体の活動を教員が支援する取組を行っている。活動の一つとして、G検定等の関連する資格の取得やコンペティションへの参加のための学習・環境を提供している。</p>
⑤修了者の進路、企業からの評価	<p>【①履修者の進路】本プログラムは、本学全10学部の学生を対象としており、修了者は専攻する学位プログラムの専門分野を基盤としつつ、データサイエンスやAI活用能力を備えた人材として、多様な分野に進出している。具体的には、情報通信、製造、金融、流通、公共機関など、幅広い企業・団体において、データ解析、システム開発、研究開発、業務改善等に従事している。また、一部の修了者は大学院博士後期課程へ進学し、研究者としてのキャリア形成を志向している。【②企業からの評価】企業に所属する構成員からなる外部評価委員会の評価報告書では、授業内容について「当該プログラムは文部科学省が定めるリテラシーレベルの学修内容を含んでいることが確認できた。」と評価を受けた一方で、「今後、当該プログラムでグループワークを実施するように、カリキュラムの見直しが必要である。」「さらに、これからの社会で必要となる「生成AIの使い方」についてもカリキュラムに含めることを検討していただきたい。」という課題が示されている。</p>
⑥プログラムの改善状況	<p>【①学部対象科目の開講】令和6年度より、工学部(「エンジニアのためのデータサイエンス入門」)と創生学部(「データサイエンス概説」)で学部ごとに特化した科目を開講している。【②モデルカリキュラム改定への対応】令和7年度より、全学部向け「データサイエンス総論Ⅰ」の内容改訂を行い、特にELSI領域と社会での活用事例にあたる学習を拡充した。活用事例の収集にあたっては、新潟県データサイエンス人材育成協議会を通じて県内教育機関・企業の教材・資料の提供をうけた。また、改訂にあたっては高等学校情報科との学習接続の調整もしており、令和7年度の学生アンケートでは「高校の情報の授業の知識に加えて理解を深められた」のような回答が複数あった。【③委員会の設置】各学部の所属教員によって構成される「新潟大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会」を設置し、本学における数理・データサイエンス・AI関連の科学技術に係る教育の開発、改善及び支援に関して、評価や資料共有を行っている。</p>
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	<p>【①履修者数の目標と計画】各年度の1年次学生の履修者数の目標と計画を以下のとおりとする()内は履修率)。 令和8年度 1800名 (約80%)：理学部必修化+人文社会科学系学生の履修促進 令和9年度 1900名 (約85%)：人文社会科学系学生、特に経済学部学生の履修促進 令和10年度 2000名 (約90%)：人文社会科学系学生、特に人文学部、法学部の履修促進 【②継続的な評価・改善】内外評価委員会の評価、及び社会背景の変化をふまえて、プログラム対象科目の内容改善に取り組む。 【③高大学習のスムーズな接続】新潟地域の学校教員による団体「いがた情報教育研究会」(事務局：新潟県立大学)と連携し、高等学校情報科の現状把握に努めるとともに、履修する学生の能力にあわせて授業ができる教材コンテンツ拡張を継続して進める。</p>

大学等名	新潟大学
教育プログラム名	データサイエンス・ベーシックプログラム

レベル	リテラシーレベル
初回認定年度	令和3年度

新潟大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

データサイエンス・ベーシックプログラム

【修了要件】下記科目から2単位。

- ・ 「データサイエンス総論Ⅰ」「データサイエンス総論Ⅱ」（創生学部・工学部を除く）
- ・ 「エンジニアのためのデータサイエンス入門」（工学部）
- ・ 「データサイエンス概説」（創生学部）

【身に付けられる能力】

- ・ データサイエンスの基礎を学ぶことを目的とし、データサイエンスが必要とされる**背景**やデータサイエンスの**仕組みを学習、理解する**。（「データサイエンス総論Ⅰ」シラバス抜粋）
- ・ データサイエンスに必要なデータサイエンス力とデータエンジニアリングを主として学び、**演習を行いながら実践力を身に付ける**。（「データサイエンス総論Ⅱ」シラバス抜粋）

【プログラム実施実績】

	データサイエンス・ベーシックプログラム		データサイエンスリテラシー		データサイエンス (エキスパート接続相当)
	1年次 (内数)				
R3	1357	795	26	1	
R4	1296	1209	48	6	
R5	2033	1785	53	4	
R6	1930	1711	69	8	
R7 (前期終了時点)	1284	1219	-	-	
再認定後の目標	2000名を維持 (学年定員の約90%)	1800名 (新入生向けガイダンス・周知の継続)	データサイエンス・ベーシックプログラムを導入として、授業やシンポジウム等を通じた履修者増加の取組を継続。		



データサイエンス・ベーシックプログラムの修了者増加にあわせて徐々に増加

【地域や産業界との連携】

モデルカリキュラム改訂に対応するため、県内企業・大学のデータ活用事例や授業資料などを集約・リスト化し関係組織に再共有した。

本学では、R7年度「データサイエンス総論Ⅰ」でこの資料を活用。自身の専門分野だけでなく学外や他分野の事例を学ぶ機会を提供し、データサイエンスに必要な**学際的視野の獲得**と**応用基礎への接続**に取り組んでいる。

